

「教室で昆虫採集 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(5) 「幼虫との出会い」の一瞬

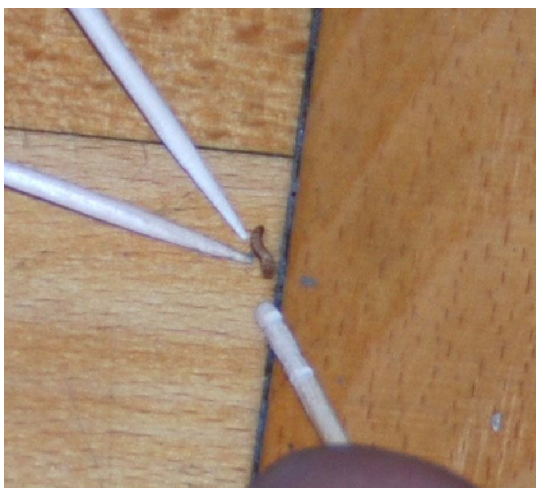
それでも5分ほどがんばっていると、ついに教室の隅で声があがった。

「あ! いた! 幼虫、いた!」

「どこどこ?」「見せて見せて!」「ホントだ! いる!」



これは「何もいないはずの場所に、何かがあることがわかった」一瞬である。「見えないものが、見えるようになった」一瞬とも言える。



これが「採集」された幼虫である。教室の床板に、何か月も潜んでいたにちがいない。にわかには掘り出されてさぞ驚いたことだろう。しばらく動かずにじっとしている。子どもたちは「死んでるのかなあ?」「ちょっと楊枝で触ってみよう」「明るいところに出したからびっくりして死んだふりしてるんだよ、きっと」お得意の「あーだこーだ」言いながら、1cmにも満た

ない幼虫を取り囲んで大騒ぎをしている。

「あ! 動いた! 生きてる!」「ホントだ、生きてる!」

これも「死んでいるかも知れないものが、生きていたとわかる」一瞬である。

(6) 幼虫の大収穫



15分ほど採集活動が続けると、何匹も幼虫が見つかった。大きさもさまざまである。これは床板の隙間で成長しているという証拠でもある。写真右下のものは、脱皮した抜け殻である。教室での「昆虫採集」は、子どもたちにとって、インパクトがあったようだ。



【子どものノートから】

「いつもいる教室のゆかに、こんなちっちゃいよう虫がいたなんて、びっくりしました。何を食べているのかふしぎでした」

「教室を歩く時は、ふんづけないようにちょっとちゅういしてみたいと思いました」

「よう虫は、クネクネしてて、かわいかった」